

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鶴岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	創造工学科 機械コース	夜・通信		0	7	7	7	
	創造工学科 電気・電子コース	夜・通信			7	7	7	
	創造工学科 情報コース	夜・通信			8	8	7	
	創造工学科 化学・生物コース	夜・通信			11	11	7	
	専攻科 生産システム工 学専攻 機械・制御コース	夜・通信		8	2	10	7	
	専攻科 生産システム工 学専攻 電気電子・情報コ ース	夜・通信			0	8	7	
	専攻科 生産システム工 学専攻 応用化学コース	夜・通信			2	10	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鶴岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鶴岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>国立高専で策定したモデルコアカリキュラムに基づき、備えるべき能力分野と到達レベルを授業科目に割り当て、授業担当者が授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を立案し、Web上で公表している。</p> <p>作成期間は概ね1月下旬から2月下旬であり、公表は3月下旬頃となる。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/gakka/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>各期末又は学年末に、試験の成績、学習状況及び出席状況等を考慮して成績評価を行っている。その方法及び評価割合等については、シラバスで明示した上で、授業担当者が学生の学修成果を厳格かつ適正に評価している。加えて、本科では出席時数を履修認定の要件に掲げており、これを満たさない科目については評価を行わないものとしている。</p> <p>なお、進級及び卒業の認定は、教員会議の議を経て校長が行うものとしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学業成績の評価は100点法で行い、60点以上の科目について単位を修得したものと認定している。なお、平均点や席次等を指標として算出し、成績の分布状況を把握している。</p> <p>また、成績評価における客観的指標の設定として、シラバスに基づき履修科目の成績評価を100点満点で点数化し、全科目の合計点の平均を算出し、その平均点により、コースごとに席次を決定している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧</p> <p>https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/sotsugyoyoken.pdf</p> <p>https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2019/07/7_02_syuryouyouken.pdf</p> <p>https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2019/07/Approach-overview.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育理念に基づき、社会におけるニーズを踏まえ、どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位を授与するのかについて基本的な方針(いわゆるディプロマ・ポリシー)を定め、公表している。</p> <p>併せて、修得すべき科目及び満たすべき累積修得単位数を定め、卒業研究の評価が可以上であることを卒業の要件としている。</p> <p>なお、卒業判定は、教員会議の議を経て、校長が行うものとしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鶴岡工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 「鶴岡高専自己点検・評価委員会規程」及び「鶴岡高専における自己点検・評価に関する実施基本方針」に沿って、各年度の自己点検・評価項目を策定し実施。 実施状況を本校のホームページに掲載。 (URL: https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/gaibu/)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 平成19年度及び25年度に高専認証評価機関を受審。その際に作成した「自己評価書」及び認証評価結果である「評価報告書」を本校のホームページに掲載。 (URL: https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/gaibu/)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 創造工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/) (概要) 1) 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける 2) あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる 3) 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う 4) 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/) (概要) 創造工学科 (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。 (B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。 (C) 工学の基礎としての数学、自然科学の基礎学力を身につける。 (D) 専門分野の知識と情報技術を身につける。 (E) ものづくりに関する幅広い対応能力を身につける。 (F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。 (G) 工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用して、実験・実習による実践力を身につける。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/) (概要) 創造工学科 ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、一年生から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定めている。 一般科目としては、人文社会、外国語、数学、自然科学、情報処理の基礎教育を行っている。 機械コースでは、機械の設計や開発を行う技術者となるために必要な基盤となる力学系、材料系、熱・流体系、運動・制御系といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。特にものづくりのための、設計・製図、加工の知識、そして、機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用するエンジニアリングデザイン能力習得に関する科目を開講している。 電気・電子コースでは、エレクトロニクス分野、メカトロニクス分野、資源エネルギー分野、材料工学分野の技術者となるために必要な数学・物理系、回路系、エネルギー・機械系、計測・制御・情報系、設計・製図系、材料系、生産工学系、法規系などの専門知識が習得できるようにカリキュラムを構築している。そして、電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用するエンジニアリングデザイン能力習得に関する科目を開講している。 情報コースでは、ハードウェアやソフトウェアの設計開発を行う技術者となるために必要な基盤となる機械系、電気電子系、情報通信系といった情報工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。特にものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術を活用するエンジニアリングデザイン能力習得に関する科目を開講している。 化学・生物コースでは、化学・生物に関する主要基礎科目として、無機化学、有機化学、分析化学、基礎生物学、物理化学、および工学実験・実習などを用意している。さらに、化学・生物を基礎とした応用分野である、環境バイオ分野、資源エネルギー分野、材料工学分野の中から選択して学修する。そして、化学生物分野を主とした幅広い知識と技術を活用す

<p>るエンジニアリングデザイン能力習得に関する科目を開講している。</p> <p>また、全コースで、グローバルエンジニア育成のためのコミュニケーション力習得に関わる科目、融合複合によるイノベーション人材の育成と起業家精神の涵養に関わる科目、専門知識の定着と活用力を涵養させるため、学修プロセス重視の「学修者中心の授業」アクティブラーニングに関わる科目を体系的に配置している。これらの課程をもとに、自ら課題を発見し解決する能力への発展を促すことで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにする。</p> <p>上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上（1～3年生については50点以上）となることにより単位を認定している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/）</p>
<p>（概要）</p> <p>創造工学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術や科学に関心があり、社会に貢献する技術者、研究者への夢を抱いている人 ・学習意欲が高く、数学、理科、国語、社会、英語の基礎力が備わっている人 ・何事にも粘り強さと責任感を持って積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人 ・「ものづくり」に対する専門的知識を身に付けて、将来、課題解決のために活躍するリーダーとなることを志す人

<p>学部等名 専攻科 生産システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける 2) あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる 3) 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う 4) 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/）</p>
<p>（概要）</p> <p>専攻科 生産システム工学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力 2. 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力 3. 専門分野に加えて基礎工学をしっかり身につけた生産技術に関する幅広い対応力 4. 英語力を含めたコミュニケーション力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/）</p>
<p>（概要）</p> <p>専攻科 生産システム工学専攻</p> <p>社会情勢の変化にも対応して活躍できる技術者や研究者を育成するため、専門科目だけでなく広い分野にわたる知識や技術も習得できるよう、以下のようなカリキュラム編成を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学工学部と同等水準の専門科目群と「総合実践英語」などによるコミュニケーション力を重視した英語科目 ・所属コース以外の基礎的な専門知識（基礎工業力学、実践電気電子工学、材料科学）と基礎技術（専攻科実験）を学ぶ融合複合科目

- ・課題解決型科目としての「実践的デザイン工学実習」や「創造工学実習」と「インターンシップ」での就業体験
- ・継続的な自己管理能力を育成し、学修の総まとめとなる「専攻科研究」
- ・社会や環境に対する問題意識と倫理観を涵養する「環境化学」や「環境地理学特論」、「技術者倫理」
- ・いろいろな分野の先端科学技術を紹介する「総合技術論」などで社会情勢を理解

評価（点数等）	基準
優（80点以上）	研究や実践的問題の解決に際して、講義で学修した内容を応用することができる。
良（70点以上）	講義で用いる教科書レベルの演習問題を解くことができる。
可（60点以上）	講義内容に関する基本的な原理、法則、方程式、学説等を理解している。
不可	学術における当該講義の位置づけを理解していない。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/>）

（概要）

専攻科 生産システム工学専攻

1. 科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人
2. 発想に独自性があり、チャレンジ精神に富んだ人
3. 技術や科学の専門基礎力を有し、開発型の実践的な技術者や研究者を目指す人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
創造工学科	—	17人	25人	3人	10人	人	55人
	—	人	人		—	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		0人					0人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/kyouiku_kenkyu/kyoin-kenkyu/kiroku/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本校では教育改革FD委員会を設置し、教員の教育力向上や学生の学力向上、学生に対する精神的・健康的な支援の充実、施設や各種設備等のサービス支援を充実させるために、組織的な活動を通じて本校の教職員の職務能力を高め、教育環境を整備することを目的として活動している。</p> <p>また、令和元年度から新たに、教育方針、手段及び教育環境の点検・改善を目的として、教育点検委員会と教育改善委員会を設置した。</p> <p>特に教育改革FD委員会では、活動の重点として「教育の質の向上と職務能力の向上を目指した活動」、「機関別認証評価を念頭においた各種活動（教育の質保証のための取り組み）」、「FD関連の情報収集と伝達・配信、周知活動」を掲げ、前述の教育点検委員会及び教育改善委員会と連携してPDCAサイクルを構築し、その充実と改善を図っている。</p> <p>なお、令和元年度の具体的な活動実績は以下のとおりである。</p> <p>（昨年度の本校全体における活動実績）</p> <p>各種教員研修、新任教員研修、FDネットワーク”つばさ”主催の諸活動への参加、学生対象の授業アンケート（前期・後期実施）、教育改善に関する学生アンケート、教員教育評価アンケート、教員相互による授業参観、教育資料の点検、卒業研究ノートの点検、保存資料（答案・レポート等）の点検、保存資料チェックシート改善の提言、カリキュラム等の改善に関する提言</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
創造工学科	160人	160人	100%	800人	801人	100.1%	若干名	11人
合計	160人	160人	100%	800人	801人	100.1%	若干名	11人
専攻科 生産システム 工学専攻	16人	24人	150%	32人	40人	125%	募集なし	0人
合計	16人	24人	150%	32人	40人	125%	募集なし	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
創造工学科	150人 (100%)	47人 (31.3 %)	98人 (65.3 %)	5人 (3.3 %)
合計	150人 (100%)	47人 (31.3 %)	98人 (65.3 %)	5人 (3.3 %)
生産システム 工学専攻	18人 (100%)	4人 (22.2 %)	13人 (72.2 %)	1人 (5.6 %)
合計	18人 (100%)	4人 (22.2 %)	13人 (72.2 %)	1人 (5.6 %)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：鶴岡高専専攻科、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、新潟大学、金沢大学、北海道大学大学院、東北大学大学院 等				
就職先：出光興産(株)、旭化成(株)、(株)シンクロン鶴岡工場、鶴岡ガス(株)、(株)高研 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
創造工学科	160人 (100%)	139人 (86.9 %)	9人 (5.6 %)	12人 (7.5 %)	0人 (0 %)
合計	160人 (100%)	139人 (86.9 %)	9人 (5.6 %)	12人 (7.5 %)	0人 (0 %)
生産システム 工学専攻	16人 (100%)	16人 (100 %)	0人 (0 %)	0人 (0 %)	0人 (0 %)
合計	16人 (100%)	16人 (100 %)	0人 (0 %)	0人 (0 %)	0人 (0 %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
国立高専で策定したモデルコアカリキュラムに基づき、備えるべき能力分野と到達レベルを授業科目に割り当て、授業担当者が授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を立案し、Web上で公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>各期末又は学年末に、試験の成績、学習状況及び出席状況等を考慮して成績評価を行っている。その方法及び評価割合等については、シラバスで明示した上で、授業担当者が学生の学修成果を厳格かつ適正に評価している。加えて、本科では出席時数を履修認定の要件に掲げており、これを満たさない科目については評価を行わないものとしている。</p> <p>なお、卒業及び進級の判定は、教員会議の議を経て、校長が行うものとしている</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	創造工学科 機械コース	167単位	有・無	単位
	創造工学科 電気・電子コース	167単位	有・無	単位
	創造工学科 情報コース	167単位	有・無	単位
	創造工学科 生物・化学コース	167単位	有・無	単位
	専攻科 生産システム工学 専攻 機械・制御コース	62単位	有・無	単位
	専攻科 生産システム工学 専攻 電気電子・情報コ ース	62単位	有・無	単位
	専攻科 生産システム工学 専攻 応用化学コース	62単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.tsuruoka-net.ac.jp/annai/kyoiku/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	創造工学 科	234,600 円	84,600 円	55,600 円～ 56,800 円	(内訳) 後援会入会金 10,000 円 後援会費 28,000 円 学生会入会金 500 円 学生会費 6,000 円 寄宿料 8,400 円～9,600 円 (寮生のみ) 寮生入会金 300 円 (寮生のみ) 寮生会費 2,400 円 (寮生のみ)
	生産シ ステム工学 専攻	234,600 円	84,600 円	18,000 円～ 28,000 円	(内訳) 後援会入会金 10,000 円 (本科から引き続き 入学する場合は免除) 後援会費 18,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・ オフィスアワー制度 教員は、放課後の時間帯等にオフィスアワーを設けて教員室に待機し、学生からの質問や相談に対応している。 ・ 相談窓口の設置 学習方法やコース・分野選択、その他の悩みを早期解消するため、メールにて受付し対応している。 ・ SA 等による補習の実施 専攻科生を SA(スチューデントアシスタント)に任命し、本科の成績不振者および希望学生を対象として補習を実施している。また、学生寮においては、希望寮生を対象に期末試験前の勉強会を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路選択を控えた本科 4・5 年生及び専攻科生を対象とし、全学的な進路指導を年 3 回に渡って実施している。また、低学年時には、特別活動の一環として、企業技術者等として活躍する本校卒業生の講演会を開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健センターにおいて、メンタルヘルスに関する調査を実施し、その結果に基づいて、相談員及びカウンセラー・精神科医による面談を行っている。セラピー犬を配置し、来室しやすい雰囲気を作り、また居場所がない学生に安らげる場所を提供している。さらに、自殺予防対策として、1 学年対象に「いのちに関する講演会」を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/kyoiku/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。